

平成29年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	幼児期の間接互惠性の獲得を支える認知・情動的基盤の検討		
プロジェクト期間	平成29年度		
申請代表者 (所属講座等)	熊木悠人 (教職教育院)	共同研究者 (所属講座等)	なし
取組方法・取組実績の概要	<p>「情けは人のためならず」という言葉に表れているような、評判を介した他者との協力関係を間接互惠性という。間接互惠性は幼児期からみられるようになることが近年の研究で明らかになってきたが、なぜ、幼児期に獲得されるのかについて認知・情動発達の面から調べた研究は少ない。間接互惠性が成立するためには、個人が、不親切な他者よりも親切な他者に対して利他的に振舞う傾向を持っている必要がある。本研究は、間接互惠性の獲得を認知・情動発達の面から明らかにすることを目的とする一連の研究の足がかりとして、幼児における不親切な他者よりも親切な他者を好む傾向、不親切な他者よりも親切な他者に対して利他的に振舞う傾向の発達を調べた。</p> <p>幼稚園に通う4～6歳児を対象とし、園内の一室を用いて個別調査を実施した。調査では、はじめに「親切な人」、「不親切な人」が登場する映像を提示した。その上で、①「親切な人」、「不親切な人」の両者に対して参加児自身のモノとして与えられた10枚のステッカーのうち何枚を分配するか(利他行動)、②「親切な人」、「不親切な人」のどちらを好むか、およびその回答に対する理由づけを調べた。</p>		
研究成果の概要	<p>本研究では、参加児を5歳半未満の年少群と、5歳半以上の年長群とに分けて分析を行った。ステッカーの分配については、相手が誰であるかによって有意な差はみられず、年齢群による違いもみられなかった。相手が「親切な人」、「不親切な人」のどちらであっても、同じ数を分配する参加児が多かった。他方、好みについては、「不親切な人」よりも「親切な人」を好む傾向があり、年長群ではその傾向が特に顕著にみられた。年長群では、「親切な人」を好んだ参加児の約半数が、その理由として、親切な行為または不親切な行為に言及していた。「親切な人」、「不親切な人」のどちらを好むかと、両者に対するステッカーの分配との間には、関連はみられなかった。</p> <p>親切な他者を好む傾向と親切な他者への利他行動との間に関連がみられなかったことから、少なくとも幼児期においては、両者には異なる認知過程が関わっている可能性が示唆された。これは、乳児期より持っていると言われる親切な他者を好む傾向と、幼児期以降に現れる親切な他者への利他行動との連続性を考える上で、重要な知見となり得るだろう。</p> <p>また、好みについての回答の分析より、この時期の幼児が「不親切な他者」よりも「親切な他者」を好む傾向を持っていることが示された。このことから、幼児同士の関係においても、親切な子どもが他の子からより好かれるということが起こっている可能性が示唆される。この点について、さらに実証的な検討を重ねていくことで、幼児の仲間関係についてのより深い理解と、それに根ざした人間関係の指導につながっていくと考えられる。</p> <p>他方で、本研究では、幼児において不親切な他者よりも親切な他者に対して利他行動を行うという傾向が観察されなかったことから、この傾向の発達を調べるためには、異なる課題を用いた検討を行ったり、調査対象を小学生児童まで広げたりする必要があると考えられる。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック願います。〕			
外部資金獲得申請(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会(国内)・国外): <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: <input type="checkbox"/> その他: